

日銀の視点

夕暮れ時、街角の体育館から元気な声が聞こえてきた。バスケットボールの練習に打ち込む子供たちだ。技術面に加え、コミュニケーション能力や協調性など社会で役立つ力も学ぶという。感染予防策と両立させつつ徐々に再開されているスポーツ活動から、自分も元気づけられた。

コロナとの共生は、今後の経済活動でも重要なテーマ。こうした共生につながり得る、本県の特長を生かした取

日銀水戸事務所長 **鈴木 直行**

り組みについて中長期的な視点も含め考えてみたい。

一つ目は屋外(アウトドア)型レジャーの活用。このころ、3密を避けつつ体験できるレジャーとしてサイクリングやキャンプが注目されてい

を誇る当県の農業も、屋外型レジャーの受け皿となり得るのではないかと。かつて滞在したフランスも欧州有数の農業国で、パリ近郊の農園は、季節ごとにさまざまな野菜、果物を収穫できる人気の観光ス

別だ。メロン、栗、レンコン、甘藷、ネギ、カボチャなど、全国に誇る果物や野菜の収穫体験は、サイクリングやキャンプとも組み合わせさせて楽しんでもらうことで、観光資源としての魅力も一段と高まるのではないかと。

通網が整備されているほか、幅広い業種の製造業が展開しており、生産拠点見直しの受け皿として有力な候補地となり得るのではないかと。

三つ目は地方移住や2地域居住の促進。専門家によると、今後はテレワークとオフィスワークを組み合わせた働き方が求められるという。都心から近く、豊かな自然、充実した教育環境が整った本県は、過密な都会から離れた環境を求める人の有力な候補地となり得るのではないかと。コロナとの共生が求められる時代、本県の底力は一段と発揮されそうだと。(次回は8月8日掲載)

ピンチ乗り越える底力

るといふ。県内には全長約180キロのつくば霞ヶ浦りんりんロードや日本一の数を誇るキャンプ場があり、コロナとも共生しやすい観光資源として改めて評価されそうだと。また、全国第3位の産出額

ポットとなっていた。レジャーというと果物狩りをイメージしやすいが、ジャガイモ、ニンジンなどの野菜の収穫も体験してみると非常に面白い。自分で汗を流して収穫した野菜を食べるときの満足感も格

を受けて企業では、部品や素材の供給遮断リスクなどへの対応として、生産拠点の多元化や国内回帰が重要な検討テーマとなっている。この点、2年連続で工場立地面積が全国第1位の本県は陸海空の交

二つ目の取り組みは、企業の誘致。コロナ禍を乗り越えるには、企業誘致が重要だと。本県は、過密な都会から離れた環境を求める人の有力な候補地となり得るのではないかと。コロナとの共生が求められる時代、本県の底力は一段と発揮されそうだと。(次回は8月8日掲載)